

「会社だけの人」でいいの？ 楽しむベテランになりたい



49歳2児の父親、埼玉に住んでいる落語家の三遊亭鬼丸です。さて、「シニアライフ案内士」の皆さんへ、ナビゲーターの私からメルマガジン第6号をお届けします。

さて、今回は「会社だけの人」でいいのか、という話題。定年後の生活を視野に入れて、人間関係を考えてみたいと思います。

若い頃は勢いだけはあるものだから、そのみで突っ走る。落語家はその典型で、私もその一人でした。ただ、勢いではベテランに勝っても、この噺が今日の客にウケるのかを瞬時に判断できない。一方、ベテランは違います。経験から客の笑いを測る術を持っていて、あの手この手で笑いのツボを探っていきます。

ネタを決めずに高座に上がる落語家は意外に多い。私はやりたいネタと分かりやすいネタをたいがい用意します。で、どちらをやるかは、本題に噺をふる「まくら」の反応で判断します。

多くの落語家がまくらをほとんど変えません。まくらは客の反応を測るリトマス試験紙。今日の客は、笑いが軽いのか、重いのか。試験紙の精度を分かって

いないと測れないから、毎回同じまくらを使うわけです。まくらが出来を左右する、といわれる理由です。

案内士の皆さんは、40、50代。仕事の経験を積み、その道に熟達したベテランです。部下に頼られ、仕事を任せられ、振り回されて、会社と家庭以外の人間関係が疎遠になっていませんか。

今年4月、改正高年齢者雇用安定法が施行され、企業には従業員に70歳まで就業機会を確保する努力義務が課されました。

あるシルバー人材センターで聞いた話です。定年後も働ける企業が増えたことで、会員の中心は今や70代とか。その担当者は、こう話していました。「現役を退いたら、いったんリセットボタンを押す。特に男性には必要です。仕事を通して、地域で新しい仲間を作り、生きがいにつなげてほしい」

職の切れ目が縁の切れ目に――。人生100年時代といわれる中で、会社の外に多様な人間関係を築くことが、充実した人生の生き残り戦略かも。人生を楽しむベテランになりたいものです。